



スマート農業の今年度の実証試験始まる

環境にやさしい栽培技術や省力化の定着を目指したスマート農業の実証試験が、管内で行われています。秋田市下新城のネギの圃場では4月20日(木)に、自動操舵トラクターに各ユニットを取り付けて施肥と耕起、畝立て、溝切り、苗の移植を同時に行う栽培体系の検証が始まりました。5月18日(木)にはAIによる営農支援システム「ザルビオフィールドマネージャ」を活用した可変施肥の2年目の実証試験が同市河辺で始まり、現在位置によって施肥量を調整しながら田植えが行われました。

ネギの施肥、耕起、作溝、移植を同時に行う様子



地場産品の消費拡大1億円超

当JAと管内3市で構成する秋田中央地域地場産品活用促進協議会(通称「農家のパートナー」ネットワーク)の活動による令和4年度の売上総額が、同協議会の発足以降初めて1億円を超えました。昨年度は3年ぶりに首都圏でトップセールスを再開。ECサイト「あきたづくし」も多くの消費者の注目を集め、会員間では秋田市産イチジクや潟上市産梨、男鹿市産梨などを使った5商品が開発されました。今年度もJA、3市、事業者が連携し農林水産業や食品関連業の活性化を図ります。

3市産品のPRに意気込む佐藤広美組合長ら



スナップエンドウの収穫迎える

当JA管内でスナップエンドウの収穫が始まりました。昨年11月に播種したハウス栽培の「ニムラサラダスナップ」が、平年より5日早い4月26日(水)から出荷されています。端境期のため引き合いが強いです。端境期のため引き合いが強いです。端境期のため引き合いが強いです。下旬まで続く見込みです。管内で栽培が多い露地栽培ものは例年6月上旬から収穫期に入り、6月中旬下旬に最盛期を迎えます。スナップエンドウは軽量で誰でも取り組みやすい品目です。栽培や出荷に興味のある方は、営農センターにご相談ください。

収穫期のハウス栽培のスナップエンドウ



管内園芸メガ団地を県内外の団体などが視察

4月20日(木)、JA福島中央会が園芸メガ団地を視察するため、秋田市雄和を訪れました。福島県内では「園芸メガ団地」構想が進められており、同県内のJAの組合長が、大規模産地づくりの先進地として当JAから園芸メガ団地の整備の経緯や園芸品目の生産実績などを聞き、(農)平沢ファームで団地の利点などを伺いました。男鹿市船越の園芸メガ団地では、5月2日(火)にJA秋田おぼこが小菊の定植機の作業を見学。10日(水)には(株)大田花きが視察しました。

園芸メガ団地を視察する福島県内のJA組合長